

Kahneman, D (2011) . *Thinking, Fast and Slow*, Farrar. New York Straus and Giroux.

(村井 章子 (訳) (2012). 『ファスト&スロー あなたの意思はどのように決まるか』. 東京: 早川書房)

参考書: 鈴木宏昭 (2016). 『教養としての認知科学』. 東京: 東京大学出版会.
から意思決定に関する部分 pp.166 – 200

・下巻の最後に収録されている 2 つの有名な論文: Tversky, A との共作。カーネマン本の p.16 以降に、Tversky との逸話がたくさん出てくる。最初は「確率的推論」の研究、続いて「不確実状況下の意思決定 (プロスペクト理論)」(p.25) へ。

・論文には「具体的な判断/意思決定課題」が登場。自分たち自身の直観を使って分析したことと、誰もが体験できたこと (デモンストレーション) が好評と自己分析 (p.18, pp.24-26)

今日は、鈴木 (2016)を例に、序論を

3. 選ぶ – 意思決定

意思決定 (Decision making) の 規範的理論 (normative theory) : 主観期待効用理論 (subjective expected utility theory)

p.165 効用 (Utility) 属性 (property, feature など。意思決定では attribution) 多属性効用理論 (multi-attribute utility theory)

p.166 主観確率 (Subjective Probability) 期待効用 (Expected utility) どう選ぶのかを与える意思決定規則 (さまざまな議論があるが) 合理性: 完全情報 (確実アクセスできるだけでなく、アクセス順などが異なってもいつも同じ値になること)、完全計算 (十分な資源があるだけでなく、再計算しても同じ結果になること)

A: 80%の確率で 4000 ドルもらえる。外れると何ももらえない。

B: 100%の確率で 3000 ドルもらえる。

B の選択の説明; 客観的な価値 (4000 ドルと 3000 ドル) ではなく、主観的な効用に基づく

効用関数 $u(4000)$ と $u(3000)$ について、対数的とする説明

(しかし、以下の例はどうするか)

C: 20%の確率で 4000 ドルもらえる。外れると何ももらえない。

D: 25%の確率で 3000 ドルもらえる。外れると何ももらえない。

ここから先は、プロスペクト理論 : 確率判断も主観的と考える。カーネマン本では、主に 4 部

p.166 意思決定のヒューリスティックス (G. Gigerenzer ギーゲレンツァ (1999))

再認ヒューリスティックス、直近ヒューリスティックス (Take the last)、最良選択ヒューリスティックス (Take the best; TTB)、最小限ヒューリスティックス

ヒューリスティックス: 計算資源のケチ (近似計算) ⇒ うまくいく理由は、外界に (p.169)

(自分の/他人の) 意思決定について、人は「語りたがる」。井戸端会議 (ゴシップ)

カーネマン本 序章 pp.13 – 15 : 日常の人間が大好きな「他人の決定に関する噂話 (理由づけや評価)」の知

的レベル、背景知識の質をあげたい：この分野の専門語彙 (vocabulary)を正しく豊かに (enrich)。本音では、「馬鹿馬鹿しい場合もある」ということに気が付いてほしい、と言いたいのでしよう (土屋) また、自分自身の認知については、多くの人間が無自覚。

4. 人間の思考のクセ (p.169-174 の論理的推論に関する議論は割愛)

p.174 確率的推論のクセ：少数の法則 (誤り) (大数の法則の逆の言葉)

二年目のジンクス (平均への回帰) 場合によっては外れ値

カーネマン本では pp.16-18：訳のせいで何を書いているのか読み取りにくい。

p.177 (p.21) Kが最初に来る英単語 vs 3文字目に来る英単語 どちらが多いか

頻度 (生起確率) の推論に、利用可能性ヒューリスティックス (availability)

pp.178-183：外界：未成年の殺人事件 現代文明におけるマスメディアの役割 (インターネットも)

カーネマン本 (pp.20-24)：教授の離婚率、政治家の不倫数、報道されることによる重要性の判断 (思い浮かぶことが重要)、政治のメディア介入

p.183：ステレオタイプ知識 ○○らしさ 代表性ヒューリスティックス (representative)

カテゴリー推論：プロトタイプ (果物といたら、何?)

プロトタイプとの類似性 (典型性) による所属判断

カーネマン本 (p.19-20) 子どもの将来、スティーブ職業のもっともらしさ (p.24 も)

p.185 リンダ問題：リンダが銀行員である確率 vs フェミニストの銀行員である確率

連言錯誤：フェミニストの実例よりメディアが報道する典型 (代表) 例

pp.187-188 は、誤りがちな推論の自覚や矯正について。実はカーネマン本も (下巻の解説を)。P.189-192 は一旦、割愛。

pp.192-195 プロスペクト理論の「有名な問題」 (詳しくは主に第2部)

カーネマン本へ

p.27 一般的なバイアスと、専門家の獲得されたヒューリスティックス (直観)

p.28 日常生活の専門家の生得的なヒューリスティックス 価値

p.28 サイモンの例：背景は 1980 年代後半からの第二次認知革命。さまざまな立場からの「知性観」、中でも「状況に基づく認知 (situated cognition)」について、第一次認知革命の代表者の言明。

p.29 エコノミストの分析。下巻の解説も。感情ヒューリスティックスという考え方 (かなり雑な紹介になっている)

p.31 システム1とシステム2：人工知能ではミンスキーのアーキテクチャ論。感情機械にも出てくる。

p.32 本書の構成 1部から4部は過去のよく知られた議論 (今では行動経済学) について、特にシステム1の性質として紹介。第4部は、理論経済学と行動経済学に関するもの (ノーベル経済学賞受賞のポイント)。第5部は、経験する自己 (セルフ) と記憶する自己という考え方。感情については、Happiness や Regret の研究紹介。

各章の担当者：人数が多いので2名で担当してください。分担やプレゼンはおまかせします。内容のポイント解説のほか、コメントや議論の話題を準備してください。

訳のせいで、何を言っているのかわかりにくい文が多数。英語 PDF を共有します。